



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：国王による海外留学促進

(17日付サウジ・ガゼット紙)

17日付サウジ・ガゼット紙は、アブドッラー現国王の治世7周年を迎えるにあたって、同国王の海外留学を促進する政策について報じている。

1. 若者への投資はアブドッラー国王が最も力を入れている政策の一つであり、それは2005年5月に設立されたアブドッラー国王奨学金制度に代表される。
2. 同制度を通じてサウジ人学生は米国、カナダ、英国、アイルランド、仏国、スペイン、伊国、オーストラリア、独国、オランダ、ポーランド、ニュージーランド、オーストリア、ハンガリー、チェコ、シンガポール、韓国、日本、中国、マレーシア、インド、南アフリカなどへの留学を果たしている。
3. 同制度はサウジ人にとって自身の視野を広げ、キャリアを形成する機会となっている。日本の山梨大学に留学中のサマーヘル・アル＝ジュハイニーは「サウジ以外の国に住むことなど今まで夢にも見なかった私が、今は東京に住んでいる。私は今、是が非でも得たかった経験を得ている」と述べた。
4. 同制度は、若者に留学先の各国においてイスラムの「大使」のような使命感を抱かせる機会を提供している。ブライトン大学（英国）に留学中のヌーラ・アル＝ガムディーは「多くの人がイスラムに対して曖昧での外れなイメージを持っていることが分かった。私はそれらの誤解を解いてまわるということを、自身の使命と決めた」と発言した。